



ユニバーサルデザイン

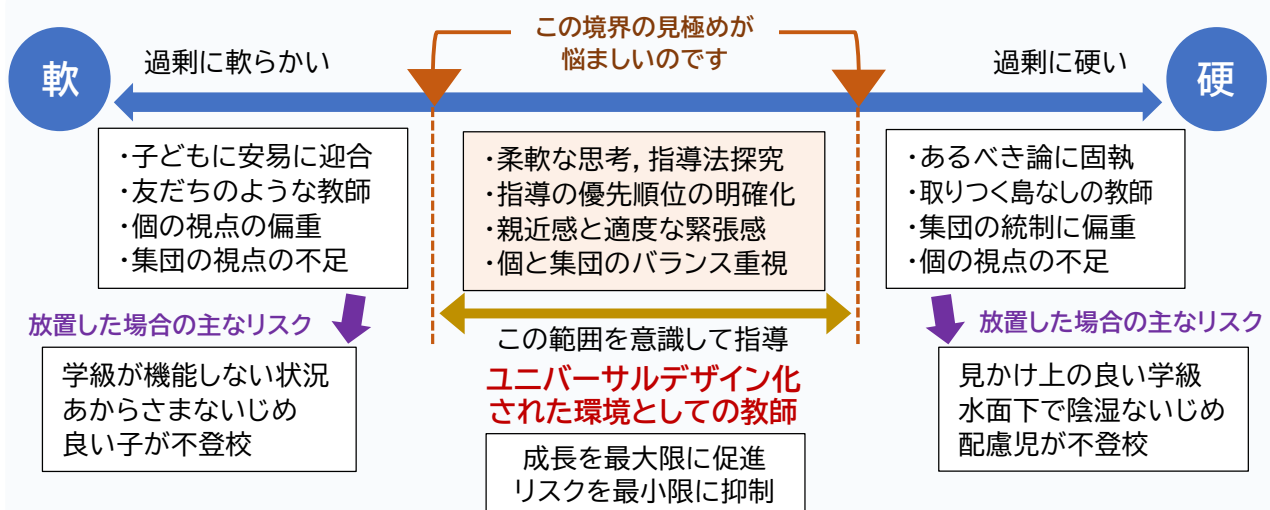
UD化された環境としての教師に

障がい等の有無にかかわらず、誰にとっても快適に利用できるように当初からデザインすることや、そうした考え方を表す言葉であるユニバーサルデザイン(UD)。学校教育におけるユニバーサルデザインとしては、余計な刺激のない教室の整備(特に教室の前面)や、見やすく分かりやすい各種表示・掲示の工夫など、物理的な要素が話題となることが多いのですが(教室環境のユニバーサルデザイン)、星槎大学大学院教授の阿部利彦先生は、それは一つの要素であり、他に2つの要素があると述べています(下記 参考文献)。

その一つは授業のユニバーサルデザイン。焦点化・視覚化・共有化を意識しながら、すべての子に分かりやすい授業を工夫するものです。

もう一つは人的環境のユニバーサルデザイン。安全・安心で居心地の良い“学級の雰囲気・空気感”を形作る子どもたち、そして担任教師の姿です。とりわけ大きな影響力をもつのは担任です。表題のユニバーサルデザイン化された環境としての教師とは、際立った発達特性や複雑な背景事情を抱えるなど、特別な支援・配慮を要する子も含めた全ての子が安心感や信頼感を寄せるような教師、教師側から言えば、あらゆる子にフィットして、支援のニーズに沿った指導に努めている教師を指しています。

ユニバーサルデザイン化された環境たる教師を実践されている先生の指導のスタンスを、思考や対応(指導内容・指導態度)の“硬軟”の視点から図に表してみました。



こうした担任教師の下では、対応に手のかかる子も、学級の一員として集団に溶け込みやすい風土がしやすいものです。周囲の子のほとんどはその子を変に刺激せず、もちろん無視するのもなく、自然に声をかけ、促し、誘い、励ます姿が見られます。日ごろの担任の姿がモデルとなっているのです。担任はそんな優しい子たちへの感謝と配慮も忘れません。学級には他にも配慮を要する子が複数いて、トラブルも起きるし、何かと不適切な行動も見られるのですが、子どもたちが担任の掌の上に収まっていて、その枠に護られ、導かれ、個も集団も着実に育っていきます… 学校訪問をしていてこんな学級を築いている、築きつつある、築こうと奮闘されている先生に出会うと、「プロだな」と頭が下がる思いがします。

【参考図書】 阿部利彦ほか著「人的環境のユニバーサルデザイン」 東洋館出版社

担当：学校生活適応支援アドバイザー 飯山・大瀧
TEL 639-4392 / 支援要請は 639-4381 諸伏・石川